

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

大分県 竹田市

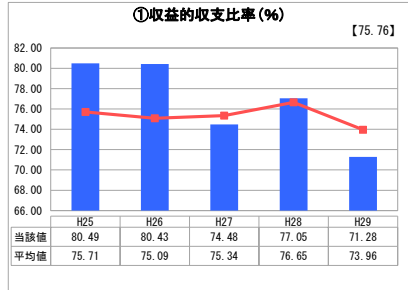
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	29.55	2,970	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
22,421	477.53	46.95
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,564	55.75	117.74

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



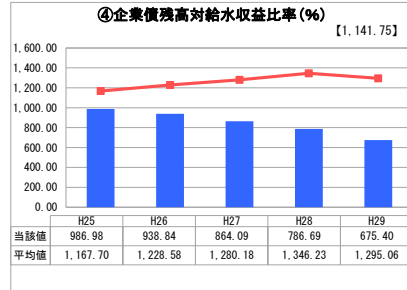
「単年度の収支」



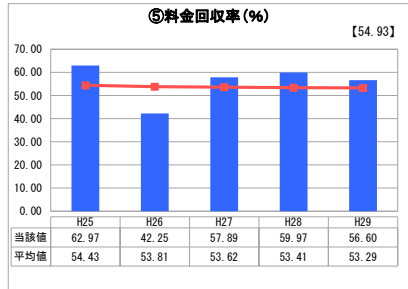
「累積欠損」



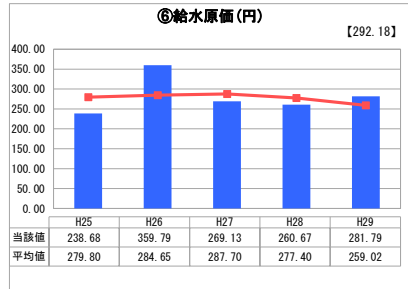
「支払能力」



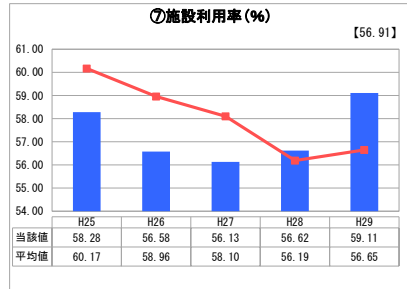
「債務残高」



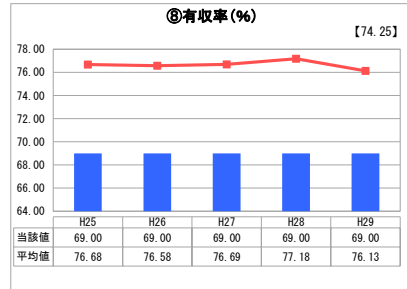
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

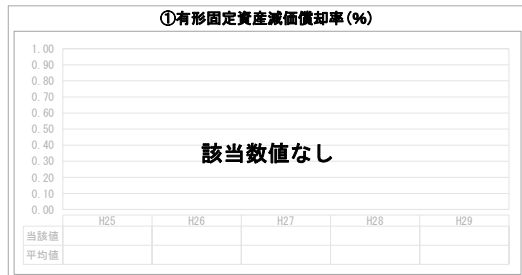


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

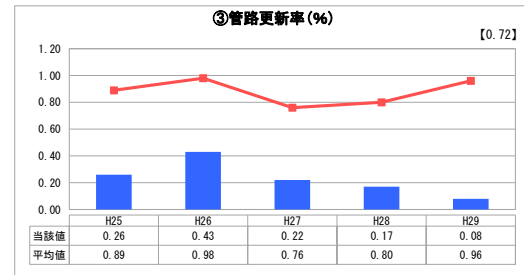
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 『収益的収支比率』：債権回収業務の一部民営化等により給水収益は増加しましたが、新水道ビジョンの策定業務等により費用も増加したため、収益的収支比率が減少しています。また、収益的収支比率は一般会計からの繰入金により、増減しています。今後、基準外の繰入が不要となるように経費等の削減に努めていく必要があります。
- 『企業債残高対給水収益比率』：近年減少傾向にあり、類似団体値と比較して低い比率となっていますが、今後、施設整備や老朽化した施設の更新等による企業債の増加が見込まれます。
- 『料金回収率』：平成26年度を除いては類似団体値と同水準で推移しています。今後、上水道との統合を踏まえ、上水道との料金格差をなくすため、段階的な料金改定を行う予定です。
- 『給水原価』：類似団体値と同水準で推移しています。今後も経費の抑制に努めていきます。
- 『施設利用率』：平成29年度では類似団体値と比較して高い比率となっていますが、今後、給水人口の減少により、施設の遊休化が懸念されるため、上水道との統合を踏まえ、施設の統廃合を図っていく必要があります。
- 『有収率』：類似団体値と比較して低くなっています。配水管の漏水が原因と考えられるため、修繕工事などによる漏水対策が急務となっています。

### 2. 老朽化の状況について

- 『管路更新率』：類似団体値と比較して低い水準で推移しています。これは、財政的な面で管路更新が滞っているためです。上水道との統合に伴い、有収率の向上も考慮し、平成29年度に策定した新水道ビジョンに基づき施設の計画的な更新を図る必要があります。

## 全体総括

本事業の経営は、給水収益に加え一般会計からの繰入金なしではできない状況です。今後、上水道との統合を計画しており、策定した簡易水道事業の統合を加味した新水道ビジョン及び経営戦略に沿って、経営基盤の強化を図ってまいります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。